交流を始める前に準備しておくこと

　４月、学級編成や担任が決まったら、幼小連携を進めるための連携チームを立ち上げ、新学期がスタートする前から交流内容や年間計画を検討する打合せ、それぞれの交流活動に係る事前事後検討の日程等の調整を行う。小学校と幼児教育施設、両方の年間指導計画に入れられるようにしておくと、交流がしやすいのではないかと考える。

＜連携チームのメンバー＞

〇　１年生担任

〇　年長児担任

〇　連携担当

＜検討内容について＞

〇　年間計画について

〇　交流活動におけるグループ編成について

〇　配慮を要する園児や児童についての情報共有

〇　年間を通して取り組む歌やダンスの内容

〇　毎回の打ち合わせを気軽にするための連絡手段・方法の相談

〇　活動の最後に自由に遊べる時間を持つことができるか

４月　国語科

じこしょうかいげえむ

＜趣旨＞　自立心　　言葉による伝え合い

入学して、友だちができるのか不安に感じている児童が多い時期にできる活動案である。この活動では、これまでに話していなかった友だちと話すことが出来たり、好きなものと名前を覚えたりする姿をめざす。少しでも学級の友だちと話したり、楽しみながら名前を覚えたりできるような活動になっている。

　＜引き出したい子どもの姿＞

参考動画

NHK for School

「すたあと」じこしょうかいげえむをしよう

〇　たくさんの友だちに話しかけている。

〇　自分のことを友達に伝えたいと思って活動している。

＜方法＞

1. 好きなものを用紙の真ん中に描く。
2. 用紙を相手に見えるように持ち、教室を自由に歩いて相手を見つける。
3. 友だちとじゃんけんをして、勝った人から名前と好きなものを紹介する。
4. お互いの紹介が終わったら、自分の用紙を相手に渡し、サインを書き合う。
5. 握手をして次の人に交代する。
   * サインを書き合う場面で、文字を書くことに抵抗がある児童に対しては、絵でもよいことを全員で確認すると安心して取り組める。
   * 「好きなもの」という大きなくくりで取り組むと考えにくい児童がいる可能性があるので、「好きな食べ物」など制限してもよい。活動を始める前に、「好きな物ってどんなものがあるかな」と考える時間を確保すると安心して活動できることにつながる。

＜関連する教科＞

国語科「どうぞよろしく」

生活科「すたあとぶっく（なかよくなりたいな）」「すたあとぶっく（わたしもやってみたいな）」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　友だちのサインがたくさん集まった嬉しさを感じられるようにする。

〇　これから一緒に遊んでたくさん友だちの好きなことを知り合えることを伝え、小学校生活が楽しみになるように終える。

５月　幼小交流

ようちえんであそぼう

＜趣旨＞　　協同性　　社会生活との関わり

　　入学、進級して学校・園生活に慣れてきた５月頃からの幼稚園交流を始めるとよい。１年生は入学した姿を園の先生に見せたい、１年生になったことを誇りに思っている。その気持ちをさらに伸ばすために、幼稚園児と交流し、自分も友だちも「楽しい」と思える場を作っていけるような活動になっている。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　年間を通して一緒に活動する友だちを知り、楽しく遊ぶ。

〇　一緒に過ごすことが楽しいと感じられる場所づくりをしている。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　自由に遊ぶ時間の環境設定について（小学校から持ち込む物の確認も含む）

〇　配慮が必要な子どもと援助について

＜方法＞

①　小グループをつくり、年間を通して同じグループで活動する。

②　みんなで一緒に踊れるダンスや歌を用意しておき、毎回の活動の最初に取り組む。

③　「じこしょうかいげえむ」で経験した自己紹介の仕方を使って、グループ内で自己紹介をする。

（※　１年生は、「がっこうのひととはなしてみよう」で学習したインタビューの仕方を使って幼稚園児に名前を尋ねる。）

④　グループのマークを話し合って決める。

（※　みんなの好きなものを書いた用紙を並べると話しやすい。）

⑤　残った時間はグループで好きな遊びをする。

＜関連する教科＞

国語科「どうぞよろしく」

生活科「がっこうのひととはなしてみよう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　久しぶりに幼稚園に来て（出身園でなくても）楽しかった思いが共有できるようにする。

（１年生）

〇　一緒に遊んだグループで経験した楽しさや嬉しさを言葉にすることで、次につながるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　グループのマークが書かれているものを図画工作科の時間に製作し、用意する。

〇　用意したものと合わせて招待状を作り、幼稚園に届ける。

（※　グループのメンバーの写真を入れる等、園生活の中で幼児が見て思い出したり話したりし

て楽しみにできるような工夫ができるとよい。）

〇　次回は小学校に来てもらうので、１年生が活動で感じたことや交流での様子を写真などで共有し、楽しみにしてもらえるような掲示物（感想や写真などが入った）などを作成しておく。

〇　幼稚園に次回はどんなことがしたいのか尋ねておく。

５月生活科

わたしのはなをそだてよう

＜趣旨＞　　自然との関わり・生命尊重　　　健康な心と体

　１年生の生活科には春に種の観察に始まり、開花、種の採取まで長期間観察をする学習内容がある。就学前の経験からさまざまな植物に触れ、育ててきている。小学校に入学し、新しい出会い、学習への意欲を伸ばしつつ、これまでの経験をもとに活動に取り組めるようにする。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　自分が育てたいと思う植物を選んでいる。

〇　自分が選んだ植物に対して愛着をもって育てたいという気持ちをもつ。

＜方法＞

①　これまでに育てたことのある植物を振り返る。

②　教科書にある花を見せ、どれを育てたいのか選ぶ。

③　選んだ花ごとにグループをつくり、種を観察する。

④　描いた種を見せあい、感じたことや見つけたことを交流する。

⑤　広い場所へ移動し、種を植える。（ビニールシート・シャベルを用意しておく）

⑥　植えたときの気持ちや様子を記録する。

＜関連する教科＞

国語科「こんなものみつけたよ」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　子どもが気付いた植物ごとの種の違いのおもしろさをクラスで共有し、自分の花に愛着を感じて大切に育てようという思いにつながるようにする。

〇　いつ頃芽が出るか、どんな芽が出るか、楽しみがふくらむように話す。

＜次回に向けて＞

〇　育てていく中で気が付いたことを記録できるようにしておく。

　　　　例）タブレットで写真を撮っておけるようにする

　　　　例）気が付いたことをメモできるように壁模造紙を用意しておく　など

〇　育て方について、子どもから出てきた思いや疑問を受け止め、置く場所や支柱を立てる時期など、自分で決められるようにする。

〇　今後の交流活動のために、花がらを集めておくなどをすると、楽しく学習につなげることができる。

６月　幼小連携

しょうがっこうであそぼう

＜趣旨＞　　思考力の芽生え　　言葉による伝え合い

　　前回の「ようちえんであそぼう」では、幼稚園へ小学生が出向く交流活動を提案した。２回目の交流は、幼稚園児が小学校を訪れる交流活動である。この活動では、前回、グループ活動をした友だちと改めてグループになることで、慣れていない場所でも、知っている友達がいる安心感を得ることができ、仲よく遊ぶ姿が見られることをめざす。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　グループで活動する楽しさを感じる。

〇　年下の子に対して優しく声をかける。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ＞

〇　幼稚園側が体験したいこと、小学校側が学習の内容から連携できそうな内容を交流し、活動内容を考える。（例：小学生体験・・・ランドセルを背負う、一人一人の机のところに行って座る

例：生活科　「あめあがりのこうていにでてみよう」の単元で、梅雨の時期のグラウンドや園庭の様子を観察し、生きものを探したり、植物を見つけたりする など）

〇　自由遊びのための場所や環境をどのようにしておくかを決める。

＜方法＞

①　前回決めたグループで集まる。

②　一緒に体を動かす。（ダンスや体操など）

③　グループでの活動を楽しむ。

④　グループごとに、残った時間で遊ぶことを決め（もしくは決めておく）自由に遊ぶ。

＜関連する教科＞

生活科「あめあがりのこうていにでてみよう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　一緒に遊んで楽しかったことや、もっとしてみたいと思ったことを共有できるようにする。

〇　活動していく中で、難しかったことやどうしたらよかったのか考えたことを伝え合い、次への意欲につながるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　７月は「なつとなかよし」の単元で交流するので、水を使った遊びの交流を予定する。

〇　交流の前に、それぞれが考えた遊びを学校・園で体験しておくと、交流活動につながりやすい。

７月　幼小交流

なつとなかよし

＜趣旨＞　　豊かな感性と表現　　協同性

　暑くなってきた７月ごろ、夏ならではの活動ができる。幼児教育施設では、毎日のように水遊びをしている。小学校に入学すると、なかなかその機会を作ることができていないのが現状である。１年生になり、生活科を学習していく中で、幼児期の経験を活かし、新たな遊び方を見つけていけるのではないか。また、その遊びを幼稚園児と交流することで、幼稚園側も新しい発見に出会えることを期待する。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　グループで楽しく遊ぼうとしている。

〇　見つけた遊びを共有している。

〇　個別に声をかけたり、寄り添ったりすることで、みんなが楽しく遊んでいる。

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　園でやっている水遊びの内容を交流する。

〇　用意しておくものや場所など、環境設定を相談する。

〇　濡れた後の片付け方などを考えておく。

＜方法＞

1. 一緒に体を動かす。（ダンスや体操など）
2. 水を使った遊びをすることを予告しておき、それまでの経験や遊びの中で使いたいものをそれぞれが用意し、持ち寄り、見せあう。
3. グループごとに楽しく遊ぶ。
4. 楽しかった遊びや感想を交流する。

＜関連する教科＞

生活科「なつのあそびをたのしもう」

生活科「おきにいりのなつをつたえよう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　グループやまわりの友だちと遊んで楽しかったことが感じられるようにする。

〇　さらにやってみたいと思ったことや、今後してみたいこと（水遊び以外）を話し、次回の交流が楽しみになるようにする。

８、９月　幼小交流

うんどうかいのれんしゅうをたのしもう

＜趣旨＞　　健康な心と体　　道徳性・規範意識の芽生え

　 ２学期が始まり、小学校は運動会の練習が始まる。幼稚園児は小学校で大きな音が流れたり、小学生が運動場を走り回ったりする様子を見聞きしている。そのような姿を近くで見てもらい、小学生が誇らしい気持ちを持ったり、幼児と一緒に体を動かす楽しさを感じたりして、運動会への意欲を高める機会を作る。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　がんばっている様子を見てもらうことで、さらに楽しく活動しようとする。（１年生）

〇　「見てもらう」ということから、計画的に取り組み、見通しを持って行動しようとする。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　見学する場所を相談しておき、できれば幼稚園の子ども達が見ながら一緒に踊れるような、環境を設定する。

〇　一緒に走る際に配慮することがあればグループごとに共有する。

＜方法＞

①　毎回取り組んでいる体操やダンスを一緒に踊る。

②　徒競走を、グループで一緒に走る。

③　運動会の表現を発表する。

④　感想交流をする。

＜関連する教科＞

体育科「多様な動きをつくる運動遊び」など

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　一緒に体を動かして活動することの楽しさが感じられるようにする。

〇　見てもらえたことが自信につながり、本番に向けてさらにがんばろうという気持ちがわいてくるように話す。　（１年生）

＜次回に向けて＞

〇　かけっこ（未就学児対象）を運動会競技に入れていくことを校内で検討する。

〇　幼稚園児の表現を見る時間を相談していく。

１０月　幼小交流

あき見つけをしよう

＜趣旨＞　自然との関わり・生命尊重　　豊かな感性と表現

　 生活科「あきとなかよし」の中に、「校ていであきを見つけよう」という単元がある。その単元で、校庭だけでなく、園庭も範囲を広げ、幼稚園児・小学生が一緒に秋見つけをすることを提案する。校庭だけでは見つからないものも、園庭にはあるかもしれない。また、中庭まで探しに行けば、幼稚園児も楽しく秋見つけをできるのではと考える。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　友だちと一緒に秋を見つけることを楽しむ。

〇　季節の変化に気付き、気が付いたことを表現する。

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　どんな動植物が見られるのかを確認する。

〇　事前に用意しておくものを確認し、準備しておく。

〇　見つけに行ける場所の範囲や安全面を確認する。

＜方法＞

1. 毎回取り組んでいる体操やダンスを一緒に踊る。
2. 探しに行く場所を確認する。
3. 一緒に秋見つけをする。
4. 端末を使って見つけた秋を写真に記録する。
5. 見つけてきたものや気付いたこと等を交流する。

＜関連する教科＞

生活科「あきとなかよし」

国語科「しらせたいなみせたいな」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　言葉や写真を使って、楽しかったことや発見したこと、自分たちが感じた美しさやおもしろさが伝わりやすくなるようにする。

〇　友だちと一緒に見つけたさまざまな物の色や形、音、重さなど、その特徴の感じ方を表現できるように話す。

＜次回に向けて＞

〇　校外での遠足を計画し、学校近辺で見つけられなかった秋を見つけることを予告する。

〇　秋見つけビンゴができるように準備をしておく。

〇　ビンゴ用紙を印刷する。また、見つけた秋を保管するための肩から掛けられる「宝物入れ」を製作しておく。

（参考：R５年度　御所南小学校研究大会　１年生生活科の学習）

〇　園の先生方と行先の下見を行い、秋見つけに十分な動植物があるかを確認する。

１０月　幼小交流

あき見つけえんそくにいこう

＜趣旨＞

　道徳性・規範意識の芽生え　　社会生活との関わり　自然との関わり・生命尊重

　　校庭や園庭で見つけられなかったものや同じものなど、いつもと違う場所で秋見つけをすることで、新しい発見をすることができるのではないか。また、前回は見つけたものを写真に撮る、という活動をいれたので、今回はビンゴができる活動を取り入れる。また、「宝物入れ」を用意しておき、気に入ったものは持ち帰り次の遊びにつなげられるようにする。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　友だちと一緒に秋を見つけることを楽しむ。

〇　前回見つけたものと比べながら秋見つけをする。

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目>

〇　「宝物入れ」の作り方や材料を共有する。

〇　行き先までのルートや安全の確認をする。

〇　秋見つけに十分な場所や動植物があるかを確認するために一緒に下見を行う。

＜方法＞

① 校庭に集合し、グループを確認する。

② 注意事項を確認する。

③　公園に到着したら、持ち物を置き、毎回取り組んでいる体操やダンスを一緒に踊る。

④　秋見つけの準備をする。

⑤ 小グループに分かれ、秋見つけをする。見つけた秋を「宝物入れ」に保管したり、ビンゴを埋めたりする。

⑥ 全体で見つけた秋を交流する。

＜関連する教科＞

生活科「あきとなかよし」

　　　　　　「あきのおもちゃをつくってあそぼう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　小学校や園で見つけたものとの共通点や違い等、これまで見つけたものからおもしろさがたくさん見つけられると感じられるようにする。

〇　お互いにいろいろなアイデアがあり、楽しい遊びが作れそうだと期待が感じられるように話す。

＜次回に向けて＞

〇　「あきのおもちゃをつくってあそぼう」のために、材料を集めておく。

〇　おもちゃを作り、１年生の中で思い切り遊び、楽しめるようにする。

１１月　幼小交流

おもちゃ大かいをひらこう

＜趣旨＞　　思考力の芽生え　　社会生活との関わり

　 生活科「あきのおもちゃをつくってあそぼう」の単元で作ったおもちゃを使って遊んでいく中で、幼稚園児にも遊んでもらいたいという気持ちを持ち、小学校に招待し、おもちゃ大会を開きたいという流れを大切に取り組む。自分たちが楽しかったことを遊びや遊び方を思い出し、幼稚園児も楽しんでもらえるようにするにはどうしたらよいのかを考えられるようにする。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　幼稚園児が楽しんでもらえるような遊び方などを考えている。（１年生）

〇　相手だけでなく、自分たちも楽しむことができる。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　幼稚園児だけでグループを構成してもらう。

〇　どんなおもちゃがあるのかを確認しておく。

＜方法＞

①　毎回取り組んでいる体操やダンスを一緒に踊る。

②　おもちゃのコーナーを紹介する。

③　１年生はそれぞれ担当のコーナーへ移動する。

　　　幼稚園児は、自分が楽しみたいコーナーへ行く。

1. コーナーごとに一緒におもちゃを使って遊ぶ
2. グループで集まり、感想交流をする。

＜関連する教科＞

生活科「あきのおもちゃをつくってあそぼう」

　　　　　　　　「あきのあそびをたのしもう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　コーナーに来てもらうために工夫したことなどを交流し、考えたり工夫したりして取り組む楽しさを感じられるようにする。（１年生）

〇　自分たちの作った物で幼稚園児と遊んで楽しかったことや、もっとしてみたいと思ったことなどが、さまざまにわいてくるように話す。（１年生）

＜次回に向けて＞

〇　次は冬に向けての交流を計画していく。

〇　もし、幼稚園児が秋のおもちゃを作っていたり、絵を描いていたりした場合は、その紹介も考えていく。

１月　生活科

ふゆ見つけをしよう

＜趣旨＞　　自然との関わり・生命尊重　　健康な心と　　豊かな感性と表現

　 ３学期になると、気温が下がり冬を感じられることが多くなる。これまで、季節ごとの動植物などを見つけてきた経験から、冬の動植物を見つける活動を引き続き行うことを提案する。また、見つけるだけでなく、風などを感じる中で、冬ならではの遊びを知り、遊ぶ活動を取り入れることも併せて提案する。その遊びを思い切り楽しむことで、子どもたちから幼稚園児にも紹介し、一緒に遊びたいという気持ちが芽生えることを期待する。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　これまでの季節には感じられなかったことを見つける。

〇　楽しい気持ちを誰かに共有したいという気持ちを持つ。

＜方法＞

①　「冬」のイメージについて話し合う。これまでの季節との違いを考える。

②　外に出て、冬の植物や動物、自然に起きている様子を見つける。

③　見つけたことを交流する。

④　次の時間にしたいことを話し合う。

＜関連する教科＞

生活科「ふゆの校ていにでてみよう」

　　　　　　　　「かぜとあそぼう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　楽しかったことや不思議に思ったこと、音や触感等、感覚的な捉えや感想が多様に出てくるように話す。

〇　今日見つけたことを生かしてさらにやってみたいことなどを話し、次回が楽しみになるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　学級で冬見つけや冬遊びを何度か楽しみ、楽しかったことを幼稚園児や他学年に伝えたいという思いを持てるようにする。

〇　休み時間にも冬の遊びが出来る環境を設定しておく。

１月　幼小交流

ふゆのあそびをしょうかいしよう

＜趣旨＞　　言葉による伝え合い　　思考力の芽生え

　自分たちで冬を見つけたり、遊んだりしたことを誰かに伝えたいという思いを持ち、交流できる場を設定することを提案する。それまでに活動を楽しむ時間を何度も設定することが大切だ。楽しかった気持ちを共有するために、紹介の仕方を工夫できる環境を用意することも大切である。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　紹介するだけでなく、実際に行ったり見たりできる環境を作ろうとする。（１年生）

〇　一緒に楽しもうとする場を作ろうとする。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ＞

〇　交流する場所を相談する。寒さ対策も考え、服装等も相談しておく。

〇　どんな遊びをしているか、してきたか、ルールのある遊びについてはルールを確認しておく。

＜方法＞

1. 毎回取り組んでいる体操やダンスを一緒に踊る。
2. グループに分かれ、見つけた冬の動植物や冬の遊びを交流する。
3. 見つけたものを見に行ったり、遊んだりする。
4. 感想を交流する。

＜関連する教科＞

生活科「ふゆのあそびをしょうかいしよう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　お互いに楽しんでいる遊びを共有することで、いつもの遊びがもっと楽しくなったと感じられるように話す。

〇　寒くても楽しく遊ぶコツを話して共有し、冬の生活が楽しく感じられるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　国語科「ものの名まえ」の交流に向けて、小学生はお店屋さん、幼稚園児はお客さんの準備をする。

２月　国語科

おみせやさんをひらこう

＜趣旨＞　　社会生活との関わり　　数量や図形、標識や文字などへの興味・関心

　 国語科「ものの名まえ」の学習で、まとまりの名前と一つ一つの名前について学習する。そこから、お店屋さんを開き、学習内容を活用する。子どもたちが、何のお店屋さんにしたいか、お店屋さんらしく話すにはどのように話せばいいのか、表現することが楽しめるようにする。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　自分たちで、どうすればお店屋さんができるのか、どんな話し方がお店屋さんらしくなるかを考える。

〇　楽しかった気持ちを共有したいという気持ちを持つ。

＜方法＞

①　学習した内容を振り返り、お店屋さんを開くことができることを知る。

②　グループに分かれ、お店屋さんや商品を考える。

③　必要なものは何か、お店屋さんはどのような話し方をしているかを考える。

④　お店屋さんの準備をする。

⑤　お店屋さんを開き、体験する。

⑥　体験して感じたことや楽しかったことを振り返る。

＜関連する教科＞

国語科「ものの名まえ」

　　　　　　　　「くわしくきこう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　自分の生活経験を思い起こしながら、具体的なイメージをもってお店屋さんについて話し合うことができるようにする。

〇　楽しかったことを共有し、もっと工夫したいことや、お客さんに楽しんでもらうためにはどうしたいのか、いろいろな考えを交流できるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　自分たちが体験して、困ったことやうまくいかなかったことを話し合い、欲しい材料ややってみたい工夫やアイデア等を子どもから聞き取り、次に生かす。

〇　図画工作科「ごちそうパーティー」と関連付けられるように検討する。

２月　幼小交流

おみせやさんにしょうたいしよう

＜趣旨＞　社会生活のと関わり　　言葉による伝え合い

　学習の中でお店屋さんを開き、楽しかったことを幼稚園児にも体験してもらおうという気持ちを持たせ、交流することを提案する。図画工作科「ごちそうパーティーをはじめよう」と関連付け、立体作品をお店の商品とすることで、より楽しみながら活動できることを期待する。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　楽しかった経験をさらにたくさんの人に伝えようとする。（１年生）

〇　相手や場に応じた言葉遣いをする。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　お店屋さんのやり取りの仕方を交流しておく。

〇　幼稚園側のお店があれば一緒にできないか検討する。

＜方法＞

①　体育館にそれぞれお店屋さんを準備する。

②　時間などのルールについて説明する。

③　１年生はそれぞれ担当のコーナーへ移動する。

　　　幼稚園児は、自分が楽しみたいコーナーへ行く。

④ お店やさんを一緒に楽しむ。

⑤　グループで集まり、感想交流をする。

＜関連する教科＞

国語科「ものの名まえ」

　　　　　　　　「くわしくきこう」

図画工作科「ごちそうパーティーをはじめよう」

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　どんなことが楽しかったか、自分たちの気持ちだけでなく、幼稚園児の様子も併せて感じたことを共有できるようにする。

＜次回に向けて＞

〇　小学校１年間で、学んだことやできるようになったことを伝える交流を検討していく。

〇　どんなふうに伝えられるか、どんなことを伝えたいのかを子どもたちと相談する。

３月　幼小交流

あたらしい１年生にしょうかいしよう

＜趣旨＞　　自立心　　言葉による伝え合い

　 生活科や国語科の学習で、１年間をふり返り、楽しかったことやできるようになったことを考える。その考えた内容を家族や友だちだけでなく、次に入学する新１年生や、１年間ともに交流した幼稚園児に伝えたいという思いを持つことを期待している。

＜引き出したい子どもの姿＞

〇　発表を聞くだけでなく、一緒に体験できる方法を工夫して考えることができる。（１年生）

〇　楽しかった思いなどを伝えたいという思いをもつ。（１年生）

〇　幼稚園児が小学校での新しい生活に期待を持てるように小学校の楽しさを伝える。（１年生）

＜幼児教育施設との事前打ち合わせ項目＞

〇　幼稚園児が「聞くだけ」にならないようにどうしたらよいかを相談する。

〇　幼稚園児だけで行動するので、グループを考えてもらう。（おもちゃ屋さんの時と同様）

〇　先生方には発表方法の形式などを知っておいてもらう。

＜方法＞

①　教室に招待し、グループごとに発表する場を作る。

②　絵を描いたものを見せたり、ペープサート、カルタなどを使ったりして様々な方法で発表する。

③　実際にやって見せたり、体験したりする場を作るのも可能にする。

④　感想を交流する。

　　　幼稚園児が「聞くだけ」にならないような場を設定する。

＜ふりかえりのときの留意点＞

〇　小学校の楽しさをたくさん見つけられたことをみんなで喜べるようにする。

〇　１年間の交流を通して、一緒にいろいろな遊びの楽しさを味わったことをふり返り、相手を意識した発表ができるようになったり、聞いてもらうことの楽しさや喜びが感じられたりできるようにする。

〇　新しい学年になったらやってみたいことは何かを考え、それぞれ次の学年への期待が膨らむようにする。

＜関連する教科＞

生活科「あたらしい１ねんせいをしょうたいしよう」

国語科「いいこといっぱい１年生」

　　特別の教科道徳「もうすぐ２年生」